

IV. 意見交換会

①目的

モデル事業実施施設の指導看護師との意見交換を実施することにより、その具体的な取り組みの実態、また、実施施設の関係者からの調査票及び施設訪問シートの結果に対する意見を把握し、当該事業の評価及び検証の参考とし、研修プログラム及び教材等の改訂案の作成に活用する。

②参加状況

モデル事業の試行を終了した 125 人の指導看護師に対して、検討委員を交えた意見交換会への参加を募った。ほぼ全国から参加の応募があり、最終的に 52 人が参加し、参加率は 41.6%となった。

③実施方法

グループディスカッションでの「全参加者の意見発表」では、グループ内で各自 3 分程度、自己紹介として施設名、所属、氏名など以外に、以下の項目についての課題・改善すべき事項などに関する意見を述べてもらった。

○指導看護師養成研修

- ・研修の時間数（12 時間）
- ・内容、教材（内容、ボリューム）、指導方法 など

○施設内研修

- ・研修の時間数（14 時間）
- ・内容
- ・事故発生時の対応方法の指導
- ・通常業務への支障 など

○連携によるケアの試行

- ・ヒヤリハット・アクシデント時の対応
- ・施設長や医師との連携 など

④討議内容

	テーマ	意見
指導看護師養成研修	研修の時間数 (12時間)	2日間12時間は、研修時間としては短いという意見が多いが、現場の業務を考慮すると3日間現場を空けることは難しいのが現状のようであり、これを考慮すると適当な工程と考えられる。
	内容	時間配分のメリハリをつけることで、2日間の中でも満足できる内容にすることができると考えられる。
	教材(内容、ボリューム)	看護職員が学んできた内容に近いと、振り返りや再確認できたという意見が多い。しかし、「倫理・法規」のように、理解はできるが指導は難しい内容であるという意見があったが、これは、「人体の仕組みと働き」と同様に、専門用語が多く、介護職員には難しい内容と考えられていた。このため説明するための専門用語の解説や図解などを求める意見が多くあった。また、教材自体のボリュームは多すぎるという意見である。
	指導方法	養成研修で受講した内容を一人で説明することは難しいと考える人が多い。普段教える機会がなかったり、どのように指導すればよいか分からないことが不安を招いているようである。 また、介護職員のこれまでの学習内容、経験がさまざまであることも、適切な指導方法を導き出せない要因のひとつと考えられる。
施設内研修	研修の時間数 (14時間)	今回は半月程度の範囲での実施を要請したが、このような短期間で14時間を普段の業務の中で実施するのは、3~4人程度の参加でも調整が難しいようである。
	内容	指導看護師自身が教材の不備を補うため、あるいは、介護職員に分かりやすく説明するため、工夫した資料を用意しているケースがあった。 リーダークラスの介護職員が人選されて参加していたためか、「人体の仕組みと働き」などに「関心・興味」を持つ職員も多くいたようである。 分かりやすい資料を作成するため、医師や栄養士などと協議したり、社会福祉士と打合せたりして、内容を工夫した指導看護師もいた。 吸引は常時発生する可能性が低いいため、実際のケアを体験しにくいケアである。
	事故発生時の対応方法の指導	胃ろうによる経管栄養では、さまざまな材料があるため、1種類の手技で指導するのでは介護職員は戸惑うことが考えられる。手技は材料に応じて複数の方法を準備する必要がある。
	通常業務への支障	現場で研修を混乱なく進めるためには、少なくとも前月のシフト調整時には、設定できるタイミングが望まれる。
その他	ヒヤリハット・アクシデント時の対応	胃ろうによる経管栄養では、「チューブの接続」で発生する恐れがある。
	施設長や医師との連携	基本的に良好な連携体制で進められたようである。
	双方向コミュニケーション	介護職員とは連携がとれ、互いの成長が実感でき、得るものは多かったと感じている。